

津山郷土博物館だより [つはく]

津博

TSUHAKU

2010.5
NO.

65

CONTENTS

- ◇ 衆議院議員立石岐の書簡
— 第一回帝国議会紛糾す —
尾島 治…………… 2
- ◇ 中世の美作の有名人との
つながり 梶村明慶…………… 4
- ◇ 5分でわかる津山の歴史②
「おおむかしのヘンな生き物」?
乾 康二…………… 6
- ◇ 昔のものにふれてみよう!!… 7
- ◇ 行事予定・新刊のご案内…… 8

Tsuyama City Museum

津山郷土博物館

衆議院議員立石岐の書簡

— 第一回帝国議会紛糾す —

尾島 治

■ はじめに

当館の常設展示では、美作の近代史コーナーに立石岐と加藤平四郎連名の書簡を展示している。美作地域の近代化の過程で様々な活躍した政治家・財界人として、立石岐の名は、美作地域で広く知られているが、その実像に迫る研究は意外に少ない。それには、本人に直接関係した資料が少ないことも原因のひとつとしてあげられよう。また、立石岐と自由民権運動との関わりは諸書で述べられるが、国会議員時代の様子については、まとまった記述が見られない。そこで、今後の研究の一助となるよう、ここでは、立石岐の政治家としての一面を多少なりとも知ることのできる仁木永祐宛書簡を簡単に紹介したい。

■ 書簡の内容

書簡の差出人は立石岐と加藤平四郎の連名となっており、宛先は仁木老先生、すなわち仁木永祐である。3月5日の日付で、2月末の仁木からの書簡に対する返書である。

仁木永祐は、国会の動向に関心を寄せているらしいが、予算審議に関しては既に連絡済みとして、この書簡では、衆議院が先議権を以て政府同意を得ることについて、貴族院が問題としていることや、特別地価修正案が否決されたことを報せている。また、立憲自由党の政治姿勢に関連して、国会での立石等の行動に対して、地元での反発が高まっていることを気に懸けており、仁木に地元での事情説明を依頼している。同時に、立憲自由党の解散問題にも触れ、地元での対応について述べる。最後に、予算案政府同意については両院とも通過する見込みであり、仁木の示した「御考案」も今となってはどうすることもできないとする。

■ 第一回帝国議会と美作

この書簡の年代については、3月5日の日付で、予算案のこと、立憲自由党の解散の話題などが出ていることから、明治24年（1891）の第一回帝国議会での出来事と思われる。

この書簡が記される前年、明治23年（1890）7月1日、第一回の衆議院議員選挙が、岡山県下を7つの選挙区に分けて実施された。この時の衆議院議員選挙では、第六区美作西部から立石岐、第七区美作東部から加藤平四郎が選出されている。いずれも弥生倶楽部である。

第一回の帝国議会は、同年11月29日から開かれ、予算削減の場合は事前に政府同意を必要とするとの提案に対して反対意見が出され、国会は紛糾したが、小林樟雄・加藤平四郎・立石岐（弥生倶楽部）ら自由党系の議員は、最終的には、政府予算案に妥協して合意した（『岡山県史』近代1）。

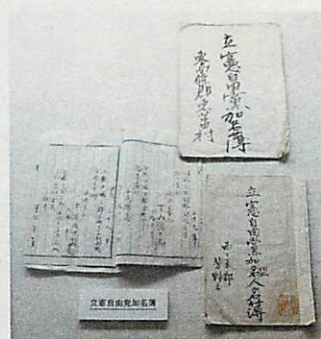
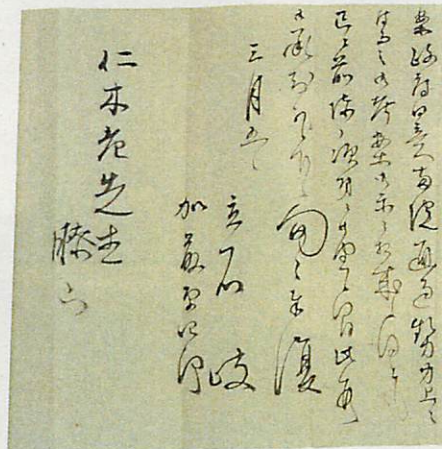
また、立憲自由党の林有造が提案した特別地価修正案が否決されている。これは、地租軽減の実現には不可欠であったが、地租に替わる財源の確保や政府予算の減額などとの絡みで複雑化していた。



立石 岐
（『岡山県名鑑』）



加藤平四郎
（『岡山県名鑑』）



立憲自由党加名簿

この書簡の中で、立石岐は、自分たちの自由党系議員としての行動が、地元の人々の意向に反しているらしいことを気に懸けており、「佐野篤太郎氏より寸分攻撃ヲ請ケタリ」としながら、国会の状況や、自らの行動の理由が、地元では十分に理解されていないのではないかと考えている。また、立憲自由党の解散の問題にも触れ、地元美作での議員や支持者への対応について、触れている。ちなみに、明治24年3月19日、星亨は立憲自由党大会を開催、新しい党名を自由党として再結成した。

書簡の受取人である仁木永祐は、美作地域での自由民権運動に深く関わっており、衆議院議員となった立石岐や加藤平四郎とも頻繁に情報交換していた様子が知られる。

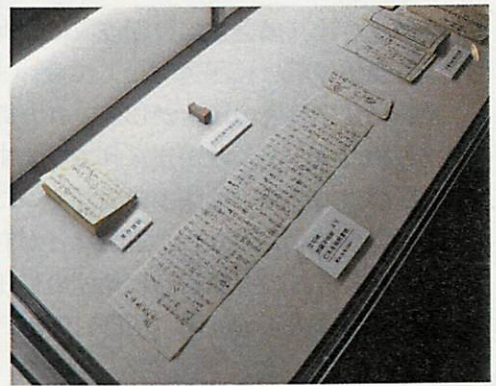
本文ではさりげなく触れられている、立石等の慰労会を發起している井手氏というのは、井手毛三と思われるが、かつて、立石岐や中島衛と共之社に参加し、国会開設運動に深く関わっていた政治家である。第一回の衆議院議員選挙にも立候補したが、その時には落選していた（『岡山県歴史人物事典』山陽新聞社）。

立石岐を初めとして、国会開設初期における地元選出国會議員たちの活動については、詳細な研究は未だ不十分と言わざるを得ない。今後の更なる研究のためにも、この立石岐の書簡は、欠かすことのできない貴重な資料である。

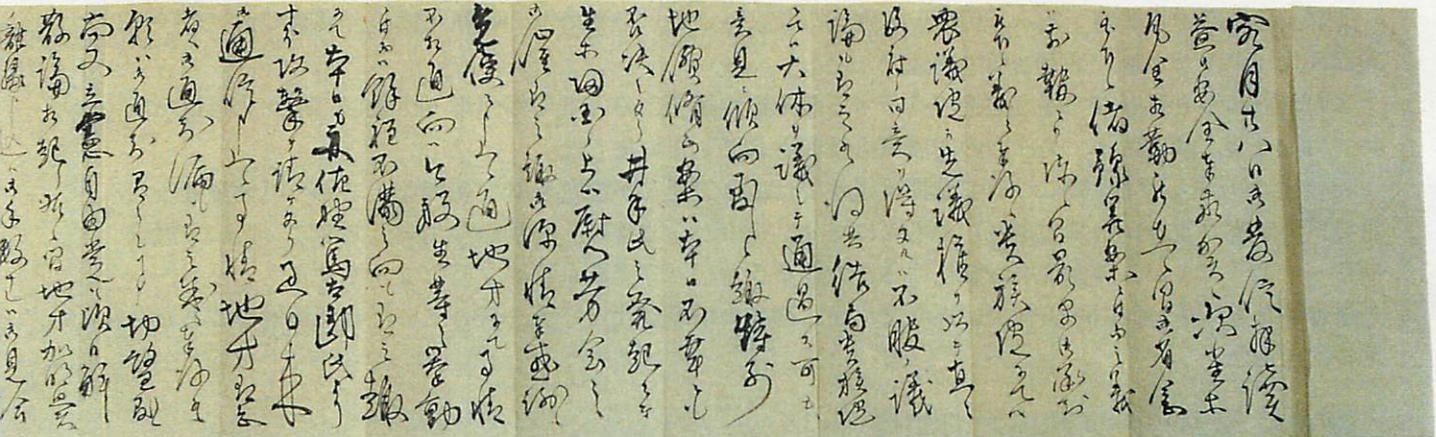
なお、立石岐は、第一回・第二回衆議院議員選挙で当選、その後、第四回選挙に岡山市から当選したのを最後に、その後は国會議員をしていない（『岡山県史』近代1）。



仁木永祐
（『苫田郡誌』）



展示中の書簡



立石 岐・加藤平四郎 連名書簡

客月廿八日御慶信拝読
 益御安全奉敬賀候次小生等
 瓦全相動罷在候間御省念
 可被下候諸予算案二付而之義
 八前報二申陳候間最早御承知
 被下候義二奉存候貴族院にてハ
 衆議院が先議権を以テ直々
 政府之同意ヲ得タルハ不服ノ議
 論も有之候得共結局貴族院
 にてハ大体ヲ議シテ通過又可キ
 意見二傾向致し候趣特別
 地価修正案ハ本日不幸ニモ
 否決シタリ井手氏之發起ニ付
 生等帰国ノ上ハ慰労会之
 御催有之趣御深情奉感謝候
 先便二申上候通地方にて事情
 不相通向ハ今般生等之舉動
 二付而ハ余程不滿之向も有之趣
 にて本日も亦佐野篤太郎氏より
 寸分攻撃ヲ請ケタリ過日来
 御通信申上候事情地方有志
 者へ御通知漏も有之哉二奉存候
 願ハ御通知有ラン事ヲ切望致候
 尚又立憲自由党も頃日解
 散論相起り居候間地方加盟者
 ノ離縁申込ハ御手数ナレハ御見合
 被成候而も宜敷哉とも奉存候予算
 案政府同意兩院通過勢力上二
 付而之御考案御示二相成候得とも
 已二前陳ノ次第二御座候間此段
 御承知可被下候句々奉復

三月五日

立石 岐
加藤平四郎

仁木老先生

膝下

中世の美作の有名人とのつながり

梶村 明慶

中世の美作というと室町時代の赤松氏と山名氏の攻防や、南北朝時代の児島高德などが有名ですが、他にもあったちょっとした歴史上の有名な人物と美作のつながりを少しご紹介したいと思います。

○実は幕府の重鎮が務めていた鎌倉時代の守護職

守護は鎌倉時代源頼朝が各国に設置し大番催促と謀反人や殺害人や盗賊の取り締まりが職務であったことは歴史の教科書などでご存知の方も多いと思いますが、では鎌倉時代、美作国の守護はだれが務めていたかとなるとご存知の方はあまり多くないと思います。

鎌倉時代初頭美作国の守護職は「梶原景時^{かじわらかげとき}」が務めていました。梶原景時は関東の武士で源頼朝挙兵時の石橋山の戦いは平家方として戦いましたがその後頼朝に味方し頼朝の忠臣として重用された人物です。頼朝の死後幕府の政治が13人の有力御家人の合議制がとられた時のメンバーに入っており、幕府の中心的な人物であったことが知られています。

石橋山の合戦の敗戦の後隠れていた頼朝を見逃した逸話や、屋島の合戦のおり源義経と船に逆櫓をつけるかで論争して対立した逸話などが有名なのでご存知の方も多いかもかもしれません。

しかし、この梶原景時は頼朝の信任は厚かったのですが御家人の間では評判はよくなかったようで、頼朝死去の後の正治元年（西暦1199年）他の御家人の弾劾にあい失脚し翌年謀反をおこし討たれてしまいました。

その恩賞として美作国の守護に任命されたのは「和田義盛^{わだよしもり}」のようです。和田義盛も関東の武士で頼朝挙兵時から頼朝に付き従い頼朝に重用された人物です。

御家人を統率する機関である「侍所」の別当（長官のこと）を務めたり頼朝死後の合議制のメンバーに選ばれたりするなど鎌倉幕府初期の重鎮でした。

この和田義盛も幕府内で権力を握ろうとする北条氏の挑発にのって建保元年（西暦1213年）北条氏と戦い（和田合戦）滅ぼされ、美作国の守護職も没収されてしまいました。

その後の美作国の守護職について時期は定かではありませんが鎌倉幕府で執権などを務め実権を握った北条氏の家督（北条氏宗家の当主）のものになり、途中から北条氏の家督から北条氏の他の一門に守護職は移ったようですが、鎌倉幕府が滅亡するまで北条氏が代々守護職を務めていたようです。

鎌倉幕府から遠い西国の美作ではありますが、幕府の重鎮が代々守護を務めていたのは意外なことだと思いませんか。

○意外に深かった足利氏との関係

足利氏と言えば室町幕府の将軍家でまた、元々関東の武士なので、美作国とあまり縁がないと思う方も多いと思いますが、鎌倉時代足利義氏が西暦1221年の承久の乱の恩賞として現在津山市新野東辺りとされている「新野保」を領したのを最初に、足利氏の領地は美作国内に増えていったようです。

鎌倉時代末期の足利氏の所領が列挙されている「足利氏所領奉行人交名」という資料が残されていますが、その資料に見られる現在の津山市内で関係が深い所領を見てみますと、上述した現在津山市新野東辺りとされている「新野郷」、現在の津山市小田中辺りとされる「田中郷」、現在の津山市上田邑・下田邑辺りとされる「田邑荘」など3か所も見ることができます。

また、その、「田邑荘」ですが、足利尊氏が後醍醐天皇に反旗を翻してすぐの建武2年（西暦1335年）12月18日の後醍醐天皇の綸旨によると「美作国田邑地頭職尊氏跡」が熊野新宮の「御祈禱料所」として「寄

附」された古文書が残されており、「尊氏跡」ということで、その時点ではすでに領地は没収されていたこととなりますが、田邑荘の地頭職を足利尊氏が実際に持っていたことが分かります。

○菅原道真の子孫を名乗る武士団「菅家党」

武士団と言えば清和天皇の子孫とする「清和源氏」や桓武天皇の子孫とする「桓武平氏」などの武士団が有名です。そこまでは大規模ではありませんが美作国の東部（旧英田郡・勝田郡を中心とした地域）には菅原道真の子孫として一族で結束した武士団があったと言われています。

「菅原道真は京都の朝廷から九州の大宰府に左遷され、そこで亡くなっていて美作とは関係がないのに子孫がいたの？」と思う方もいらっしゃるかもしれません。

「菅家党」という武士団なのですが、いわれは菅原道真の子孫菅原知頼が美作へ下向して土着し、その子孫の満佐という人を祖としその一族が結束して武士団となったとされています。

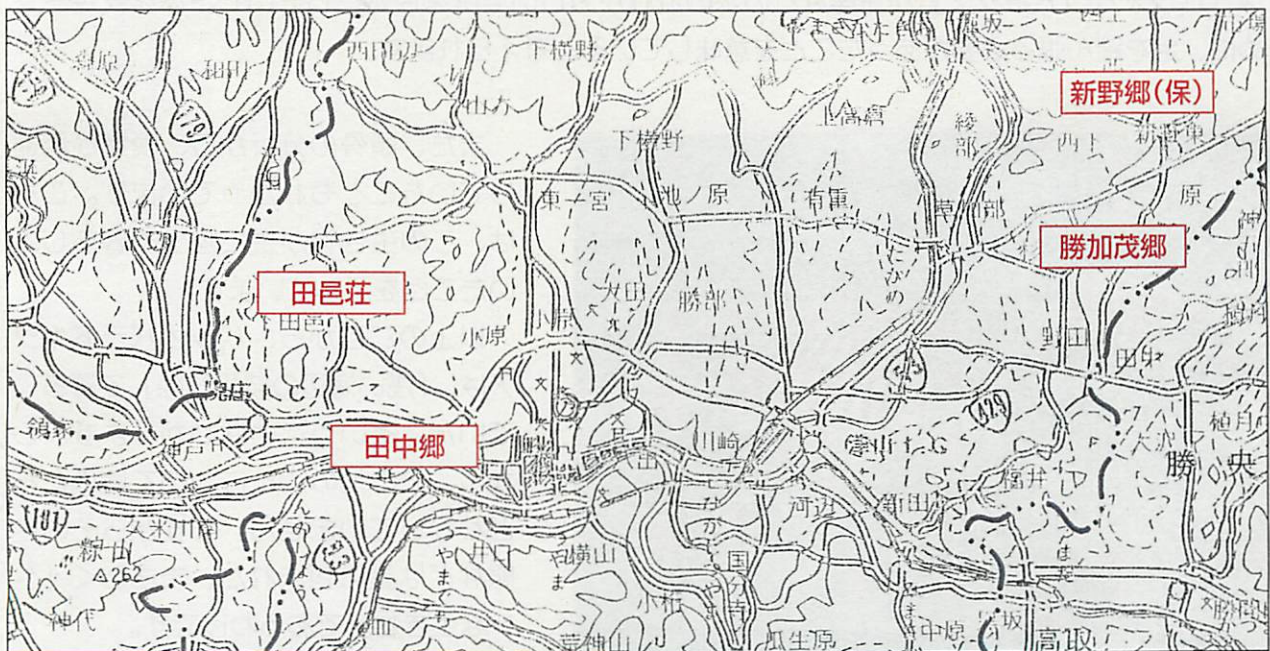
主な一族は有元氏、植月氏、鷹取氏、福光氏、江見氏、原田氏、広戸氏といわれており、南北朝の内乱期について書かれている「太平記」などには赤松勢の中心として目覚しい活躍の様子が描かれています。

現在の津山市に關係する記録では、南北朝時代当時の勝加茂郷（現在の津山市上村・坂上などの勝加茂地区辺りと推測される）一帯に勢力を持っていた一族の広戸氏が前述した「田邑荘」に「濫妨」（暴れ回ったり、略奪したりすること）したとして訴えられたという古文書も残っており今の津山市の地域にも勢力を拡大しようとしていたことが分かります。

○おわりに

中世の美作国には毛利氏や宇喜多氏などといった有名な戦国大名などがなく、派手さは欠けるかもしれませんが、調べてみるとご紹介したもの以外にもいろいろところで歴史上の有名な人物とつながっていて「おっ！」と思うこともでてくるかもしれません。中世に限らずそんな視点で郷土の歴史を調べてみるのもまた楽しいのではないのでしょうか。

（参考文献）岡山県史中世Ⅰ・編年資料 津山市史第2巻 勝央町誌 勝北町誌 図説美作の歴史（郷土出版社）国史大辞典（吉川弘文社）



荘園の場所の現在の推定図



「おおむかしのヘンな生き物」?

乾 康二

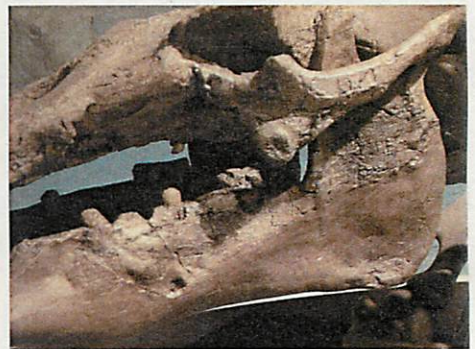
前回、「5分でわかる津山の歴史①」を掲載してから1年近くがたってしまいました。その間、いろいろな行事があり、なかなか②を掲載する機会がありませんでしたが、やっとご紹介することができました。

さて、前回で、1500万年前の津山は海だったことをお話しましたが、今回はその続きで、そのころ津山に生きていた生き物についてご紹介しようと思います。

その生き物とは、表題にも書きましたが、「おおむかしのヘンな生き物」です。別にふざけているわけではありません。れっきとした学名を日本語に訳しただけです。その学名を「パレオパラドキシア」といいます。「パレオ」というのは「古代の、大昔の」という意味で、「パラドキシア」は「矛盾した、つじつまの合わない」という意味です。ですから「パレオパラドキシア」＝「おおむかしのヘンな生き物」となります。

この「パレオパラドキシア」という生き物は哺乳類束柱目に分類されています。この束柱目というのは臼歯が柱を束ねたように見えることからその名がつけました。ただし、この束柱目の仲間で、現在生き残っているものはいません。

復元骨格標本を見ますと、この生き物は一見、哺乳類とも思えない体形をしています。下の写真をご覧ください。足が、ワニやトカゲのように外側に張り出して、いわば「がに股」になっています。これは「パレオパラドキシア」が海岸などの水の流れが激しい場所を住处としていて、体を安定させるために、足を踏ん張る必要があったことを意味していると考えられます。



パレオパラドキシアの奥歯



復元全身骨格標本

また、頭骨の分析から、嗅覚が発達していたこともわかっています。これは、この生き物が主に陸上で暮らしていたことを示しています。

以上のことから、パレオパラドキシアは、「浅い海辺の波打ち際」で暮らしていた、ということはわかります。しかし、その他のことについてはほとんどわかっていません。ですからその生態などは謎に包まれた、まさしく「ヘンな生き物」であるわけです。

昔のものに ふれてみよう!!

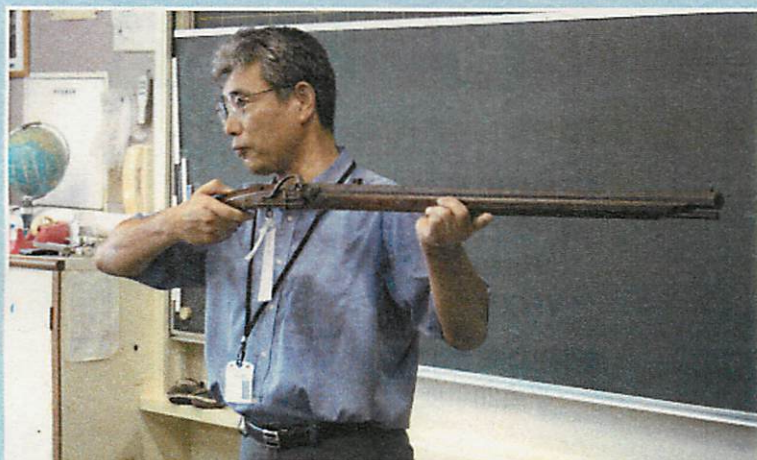


昔の歌を聞いてみよう!!

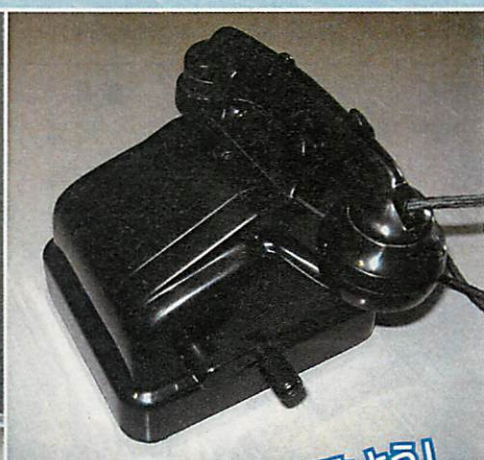
郷土博物館では、学校と博物館の連携を図るために、学校向けの教育プログラムを始めました。

学校での授業をより発展させるために、学芸員が資料（実物）を持って学校へうかがっています。

下に挙げた資料はほんの一部ですが、さわったり、動かしたりすることができます。また、歴史的背景についても学習できます。その他にもご希望の資料がありましたら、学芸員にご相談ください。



- 実物にふれて、火縄銃の仕組みを学びます。
- 日本の歴史の中での火縄銃の役割など、歴史的背景について。



昔の電話で話してみよう!

さて、これは何でしょう?



平成22年度 津山郷土博物館 行事予定

特別展示

- 国文祭つやま記念企画展「西東三鬼（仮）」
10月9日(土)～11月10日(水)
- 特別展「広瀬台山（仮）」
11月13日(土)～12月12日(日)

出版

- 特別展図録「広瀬台山」の刊行
- 「津山松平藩町奉行日記（十九）」（博物館紀要第25号）の刊行
- 津山郷土博物館年報（平成21年度）の刊行
- 津山郷土博物館研究紀要第1号の刊行

広報活動

- 「津山郷土博物館だより〈津博〉」の発行

教育活動

- 古文書講座「古文書を読もう」
5月20日(木)～3月17日(木)
全9回（8・12月を除く各月第3木曜日）
- 夏休み子供歴史教室
「弥生土器をつくる」
7月28日(水)・8月19日(木) 全2回
「トンボ玉を作ろう」
8月3日(火)・8月4日(水)・8月5日(木)
「勾玉を作ろう」
8月10日(火)・8月11日(水)・8月12日(木)
- 文化財めぐり（友の会）
5月15日(土)・9月11日(土)
11月13日(土)・2月19日(土)

◆事務局人事異動 平成22年4月1日付

- | | |
|-------------------|--------------|
| ○前館長
佐野 綱由（退職） | 館長
尾島 治 |
| ○新任 | 学芸員
梶村 明慶 |



■ ■ ■ ■ 博物館入館案内 ■ ■ ■ ■

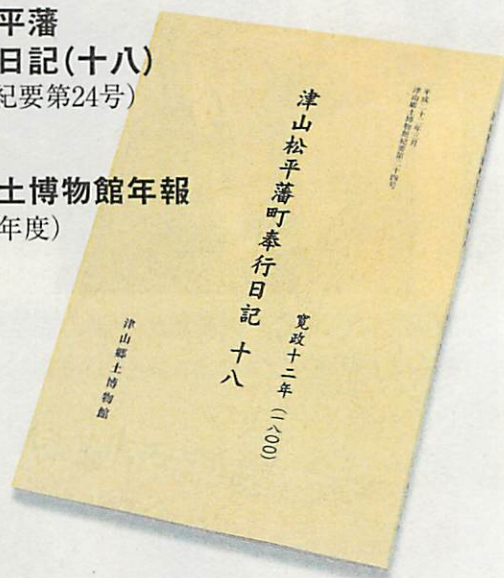
- 開館時間：午前9：00～午後5：00（入館は4：30まで）
- 休館日：毎週月曜日・祝日の翌日
12月27日～1月4日・その他
- 入館料：一 般 210円（160円）
高校・大学生 150円（120円）
中学生以下 無料

※（ ）は30人以上の団体

新刊のご案内

平成21年度の新刊は次のとおりです。

- ◆ 津山松平藩
町奉行日記(十八)
(博物館紀要第24号)
¥500
- ◆ 津山郷土博物館年報
(平成20年度)



大 博物館だより 津博 No.65 平成22年5月1日

編集・発行：津山郷土博物館
〒708-0022 岡山県津山市山下92
TEL (0868) 22-4567 FAX (0868) 23-9874
E-mail: tsu-haku@tv.tn.ne.jp

印刷：株式会社 廣陽本社